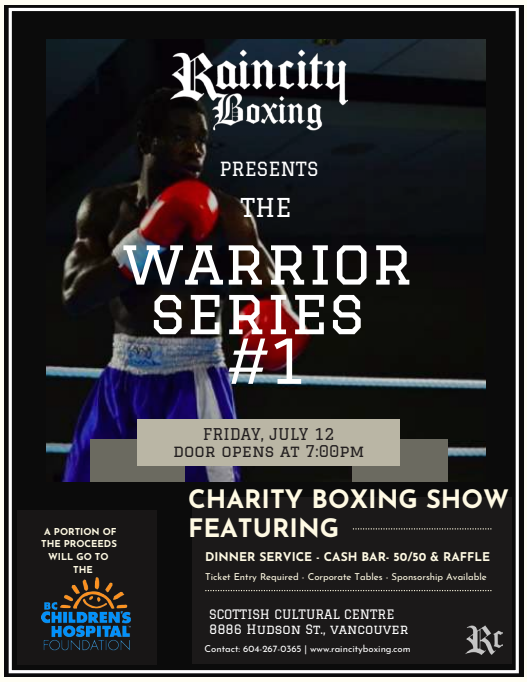

Raincity Boxing
BC Children's Hospital Foundation のための
チャリティー・ボクシング・ショー

日時 7 月 12 日 (金) 7:00pm 開始

場所： Scottish Cultural Centre
(8886 Hudson Street, Vancouver)

ﾁｹｯﾄ： $30 mamafightvancouver@gmail.com

英治さんは「7 時ゴング」の第 1 試合。
駐車場に限りもあるので「6:30pm 到着」がお勧め。

◆収益は BC Children's Hospital へ寄付されます。

58 才でリングに上がる「世直しボクサー」吉川英治氏

「試合をしたいわけじゃないけど、闘うのをやめたら、生きてないのと同じだから」と 58 才で再びリングに上がる吉川英治さんは、49 才の時に東京後楽園ホールのリングに、50 才ではラスベガスで二度闘った。いずれも相手は 20 代。英治さんより 20 センチも上回る 180 センチの長身プロボクサーだった。かつて体重 50 キロのフライ級選手だった英治さんの今回の相手は全カナダ・ウェルター級チャンピオン (4 回獲得)。試合当日は 75 キロを超えているだろう。

Q：どうしてそんなに強い相手を選ぶんですか？

英治：自分より弱い人とか同等の相手を選ぶなんて男じゃない。圧倒的な不可能に挑まなきゃ。

Q：でも、倒されるんじゃないですか？

英治：そう、だからやるんだ。倒される試合をやってこそ男だし、倒されるのが楽しみ。立ち上がるのを見せられるから。

Q：でも戦うからには勝ちたいですよね？

英治：相手を倒せばカッコいい？　俺はやだね。誰も傷つけたくない。相手に負ける悲しみを味あわせる役目はごめんだよ。

Q：相手に勝ってほしいということですか？

英治：そう、世界中のみんなに勝ってほしい。敵は対戦相手じゃなくて自分自身。ジャッジが決める勝敗は俺には一切関係ない。自分に勝つのみ。女性用のクラス MamaFight でもプロボクサーでも肝心なのは「自分をコントロールできる人間になる」こと。人をコントロールする大人が主流だから。

Q：ご自分に厳しいんですね。

英治：いやいや、まったくの甘たれ。楽をしたら、払う代償は取り返しがつかない。恵まれ過ぎてるんだから、これ以上甘えちゃいけない。

日系ホームで行なわれる「Outfight Parkinson - COOL FIGHTERS」クラスでは英治さんがコーチ。パーキンソン病を抱える参加者の笑顔が溢れる。

Q：勇気がありますね。

英治：それも勘違い。勇気はない。他に方法がないだけ。

Q：ボクシングをする動機は？

英治：パーキンソン病患者のボクシング療法や女性のクラス、フィリピンの孤児ボクサーのコーチをやってる。喋り下手だから、やるしかなくて。スポーツでもなんでも「世界を良くする」のが目標であるべき。「行動なき考え」は何もしないのと同じ。夢がなくなったら人間は肉団子。

Q：夢はなんですか？

英治：平和な世界。自分勝手をやめて、みんなが優しくなれば、かなり近づく。

Q：具体的なプランはありますか？

英治：「10(テン)」ていうプロジェクト。「エリザベス女王の財産の 10% で世界の貧困が落ち着く」って聞いた。会社や個人が収入の 10% を寄付すれば空腹で死ぬ子供たちを救えるよ。「人種隔離政策同様に、貧困は人工の産物」ってネルソン・マンデラが言ったように、作った張本人の政治が貧困を救うわけがない。気候変動に無関心どころか増長してるように。俺だけのあがきじゃ大した効果はないけど、ひとりでもふたりでも救うよ。

Q：確かに差別や戦争は続いてますね。

英治：心の中に国境があるから。自分が安全なら、それでいいって。「世界を滅ぼすのは独裁者や悪玉じゃない。非正義に対して何もしない普通の善玉市民たち」。無関心が人類の敵。

Q：ホントに熱い方ですね！

英治：寒いのは苦手。冷たい人たちが氷河期をもたらすよ。心の貧困はもっと怖い。

Q：読者のみなさんに一言お願いします。

英治：自分を信じなきゃ人生はない。

吉川英治氏：　ボクサー、ライター、インスピレーショナルスピーカー、慈善活動家、映画作家、テリー・フォックス日本大使

We are 27 years old!